

赤穂未来創造委員会 第1回教育・文化・経済部会 会議録

1 日 時 平成30年9月25日(火) 17:00～18:25

2 場 所 赤穂市民会館 1階 第4会議室

3 出席者

(1) 委員

金沢 緑部会長、小川温子、寺田榮治、目木敏明、元岡 明、内藤茂男、山本真一、
安田 哲

(欠席委員：川本哲也、大木善夫)

(2) 事務局

磯家市長公室長、山内企画広報課長、澁谷総合計画・戦略推進担当係長、桃井主査

4 次第

(1) 開会

(2) 協議事項

委員からの提案意見について

(3) その他

(4) 閉会

5 議事概要

(1) 開会

事務局

ただいまから、第1回教育・文化・経済部会を開催いたします。

委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。
す。

それでは、本日の議事進行につきましては、金沢部会長にお願いしたいと思
いますので、よろしくお願ひします。

部会長

部会長を務めさせていただきます、関西福祉大学の金沢と申します。円滑
な議事進行に、皆様方のご協力をお願いいたします。

はじめに、委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。

事務局

本日、10人中、8人の出席をいただいております。以上です。

部会長

事務局報告のとおり、半数以上の委員の御出席をいただいておりますの
で、本日の会議は成立しております。

会議は、お手元の会議次第にしたがいまして進めてまいりますので、よろ
しくお願ひします。

(2) 協議事項

委員からの提案意見について

部会長 それでは、これから議事に入ります。

 次第2の、協議事項に入らせていただきます。

 前回の委員会で、事務局から説明いただきました赤穂市の現状と将来の人口動向を踏まえ、委員の皆さんから今後のまちづくりの御提案をいただきたいという依頼がございました。その結果、皆さんから提出いただいた意見につきましては、一覧表にして、事前に事務局から配布しております。

 まず、それらの資料につきまして、事務局から説明をお願いします。

事務局 前回の全体会におきまして、委員の皆さまに、今後の赤穂市が目指していくまちづくりや施策について、ご意見、ご提案をお願いしましたところ、全部で48件のご意見等をいただきました。ありがとうございます。

 事前にお配りしております資料1をご覧ください。委員の皆さまからいただきましたご意見を、事務局におきましてある程度のまとまった項目ごとに整理をさせていただきました。また、それぞれの部会ごとに関係する事項について整理をさせていただいております。

 先日のご提案をいただく際には、人口減少社会という大きな背景を見据えた、またそれらを前提としたご意見をいただければということをお願いをいたしました。そうした背景を踏まえたご意見をいただけたものと思っております。改めましてお礼申し上げます。

 本日の教育・文化・経済部会では、項目としてまとめさせていただきました、教育対策、文化・スポーツ対策、産業対策、観光振興対策、それから両部会共通の事項につきまして委員の皆さまから色々なご意見をお伺いできればと思っております。

 それから、資料2の方についてですが、資料1のところで、例えば教育対策の最初の、子育てしやすいまちというタイトルのところには5番と番号をふっておりますが、このような番号を資料2の方でも1から順番にふっております。この資料2の5番のところ、子育てしやすいまちにかかるご提案の概要を記載しております。

 これらを参考にご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

 以上です。

部会長 ありがとうございます。それでは皆さま方から頂いたご意見につきまして、協議を進めていきたいと思っております。教育・文化・経済部会と両部会の共通のものとかテゴリーを分けて頂いておりますので、それぞれの項目につい

てそれぞれに協議していききたいと思います。それでは、資料1の右端、教育対策の5番から23番の項目につきまして皆さま方からご意見を伺いたいと思います。どなたからでも結構です。いかがでしょうか。お目通しは頂いていると思いますが、軽くみてみましょうか。資料2をご覧ください。5番は、子育てをしやすいまちづくり。19番は、少人数学校・園を閉鎖し、近くの学校・園に統合するという案。20番は、学問のまち「赤穂」を創造するという案。これは、こども大学、おとな大学を開設してはどうかという案になっております。次のページの21番は、地元企業の工場見学で、22番と23番も同じページに載っています。この当たりのところでご意見を頂きたいと思いますが、どうでしょうか。地元企業の工場見学や、プラット赤穂のこと等があります。

委員 赤穂についていろいろ記載されています。子どもたちが外に出て話ができるような形にして頂きたいです。特に塩や義士関係のことが全国的にも有名な割には地元の人が人に話すことが少ないと思います。その辺りも強調したような、学問のまち「赤穂」に入れて頂ければと思います。

部会長 なるほど。今頂きましたご意見は、学問のまち「赤穂」の教育内容に関係することですね。塩と義士関係。

委員 外から見ると、赤穂はそのような目で見られていますので、そのようなことを意識して頂きたいなと思います。

部会長 先日、倉敷に行きましたが、今でも全国の20%の塩を生産しているそうです。赤穂もたくさんしていますが、岩塩を溶かした塩を生産していて、そこは瀬戸内の水だけを使っていることを誇りにしています。そこが塩田になるまでは、赤穂の田淵さんが全国一だったそうです。非常に塩を誇りに思ったまちづくりをしていますので、赤穂も地元として取り組んでいかなければならないのかなという気がしました。そうしますと、20番と21番は関連付けることができるというご意見も入っていますね。

委員 はい。

部会長 ありがとうございます。そのことは、また検討していききたいと思います。20番と21番はどうかということにつきまして、皆さま方どうでしょうか。お帰りになるまでに1回は、どこかでご発言を頂きたいと思います。教育対策のところ意見を1つ頂いたということで、次へ進めさせて頂き、最後までいっても何もおっしゃらない場合は御指名をさせて頂きます。

委員 教育対策のところ、19番や21番についてでも良いですか。

部会長 はい、どうぞ。

委員 19番の少人数学校・園を閉鎖し、近くの学校・園に統合とありますが、なかなか市の行政の方だけでは、さっとできることではなく、学校適正化等

あり必ずしも少ない学校同士がひっついて1校にしたら良いねという話ではなく、適正規模にするために、更に周辺のところもひっつけて2クラス規模にするというような形になっているわけです。そうすると非常に赤穂市において小中学校が減少していくということがありまして、学校というのは、子どもの教育もさりながら地域コミュニティ、あるいは防災の面でも必要な施設でもありますので、これは非常に慎重に考えていかなければならないのではないかなと思います。学校が少なくなった分、先生を回せば良いと言いますが、これは文科省の基準なので、その人数になればその人数の配置しかないということなので難しいかなと思っています。少ない地域の方々の意見も十分に聞きながら慎重に進める必要があるので、今後そのようにしていきますというのは難しいかと思っています。

また、22番の不登校児童の増加についての施策の拡充では、確かに不登校児童を減らしていくことは重要なことで、現場にいるときは、一生懸命取り組んでもなかなか減らないので、かなり頭を悩ませました。提案の内容の中で、不登校児の支援の在り方を学校単位で勉強会などを行うとあります。これはどこの学校でも不登校を無くしたいという形で研修等を行っていますので今もしていると思います。上に書いているように先生方の事務的な負担を減らし、もっと子どもに関わるようにしていくということを順にやっていかなければならないことなので、市と教育委員と協議しながら先生の負担を減らして子どもに関わっていくことは非常に大切なことだと思います。ただ今言った2つについては、もうすでにしていること、あるいは法的な部分で難しい部分もあるので、一概には言えないのではないかなと思いました。

部会長 なるほど。既に長い間不登校のことや学校規模の適正化について話合われているということですね。

委員 はい。関西福祉大学の方からもスクールソーシャルワーカーに来て頂いて、保護者に関わるというようなことをして頂いているので、そのような体制をもっと充実させる、赤穂市はそのような体制がしっかりしているよ、というようなことがあれば、子育て世代も安心できるのではないかなと思います。スクールソーシャルワーカー、あるいはカウンセラー等、市独自で増やしていき、子育てについて信用感を持たせることも必要ではないかなと思います。

部会長 そうですね。今のご提案は、私たちの委員会、教育・文化・経済部会と福祉・環境・安心部会の方にも少し関わっているかなと内容的には思いました。統合会議が行われたときにも、そのような話が出ましたということでご報告をさせて頂くということでもよろしいですか。

委員 はい。

部会長 子育てしやすいと言えば、5番にも関わってきます。5番のタイトルは子育てしやすいまちということです。これもベビービクスのようなイベントを市にしてもらえないかということですが、大きく提案を1つまとめていくときに、1つ1つの内容と、どんなくりでご提案を申し上げていくかというところを考えた時に、これも先ほど言って頂いた教育にも関係がある、福祉にも関係がある、というカテゴリーに入ると思われますので、また皆さんに考えておいて頂けたらと思います。では、項目がたくさんありますので、次にいかせて頂いてよろしいですか。

文化・スポーツ対策の方、24番から29番までずっと資料2の方に続いて載っておりますので、めぐりながらご覧頂けると良いかと思えます。ここにご意見頂けますでしょうか。24番が生涯スポーツ社会の実現、25番が心が通い合い誇りが持てるまちづくり、26番が塩業、民俗資料館の整備、27、28番が山鹿素行の件、29番がトライアスロンと簡単にご紹介させて頂きましたが、ご意見頂戴できますか。

委員 26番で、先ほどの話の続きになりますが、民俗資料館はご存じの通り明治期の西洋の建物で非常に珍しく、全国にも残っておらず、その使用条件が市の条例で非常に厳しい作り方になっています。難しいと思いますが、環境から言えば、あの辺りに塩の倉庫があり、一般の会社もあります。現在も動いている日本海水もありますし、一体が塩業の環境としては非常に良い環境にあります。先日倉敷に行ったときに、赤穂にも良い所があるのに、なかなか解放されていないという話になり、今回日本海水から資料をたくさん頂いたので、その展示も含めた一大塩業の資料館ができるのではないかと提案させて頂きました。このような思いの方はたくさんおられますので、まとめさせて頂きました。

部会長 なるほど。ありがとうございます。ということは、下の方に書いてある民俗資料館と合同展示というような形のご提案でしょうか。

委員 そうです。今のところ、市の条例で展示が限られているみたいなので、難しいようです。その辺りの条例を変えなければならないかも知れませんが、観光とも結びついた資源になると思います。倉敷に行つてつくづく思いました。せっかく良い資料を日本海水から頂いたので活用した方が良いのではないかと思います。

部会長 塩関係はいろいろなところに資料がありますよね。

委員 やはり赤穂の塩は、全国的なもので非常に注目されていると思いますが、資料が分散されてしまつて一か所に無いようです。

部会長 分散されているメリットを活かすことも考えられますね。つけて歩くナントカマップとか、スタンプラリーみたいなものも考えられることも含めての

ご提案ということで、合同というのは、建物を動かしたり展示を動かしたりするのは難しいかも知れないけれど、何かアイデアがあればというご提案でした。ありがとうございました。ご意見頂きました。他の方はいかがでしょうか。

委員

スポーツ推進に関連して、今はやはり少子高齢化の中で、高齢者の方がお元気でスポーツに親しむ機会がだんだん増えていると思います。今、赤穂市では施設設備として海浜スポーツセンターや元禄スポーツセンター、みなと広場はグラウンドゴルフが楽しめるような場でもあるわけですが、グラウンドゴルフ協会と施設を管理しているところがタイアップしてできるだけ機会を増やすような行事が行われています。それに対して行政として、支援していくような施策が今後必要ではないかと思います。それが生涯スポーツ社会、お年寄りが生き生きと活動できる社会づくりの一部になるのではないかと思います。

また、少子化によってクラブ活動等が実施できないような状況が中学校でも出てきています。1つには、指導できる教員がいないということもあり、本当はしたいけれど、できない。そのような子どもたちを救済するような施策として体育館なりスポーツセンターなりで市が運営するようなスポーツ教室のようなものを作ることによって小・中・高・大とスポーツしていく流れが継続してできるのではないかと思います。海浜スポーツセンターでは、関西福祉大学のサッカー部の協力を得まして幼稚園等に循環指導に行っている。そのようなことが、小学校、中学校、高校とつながっていけばと思います。そのような1つの流れを市で予算化してもらいたい。スポーツ先進都市赤穂と言いながら非常に低迷していると思います。その辺をもう少し協力をして頂けたらという思いがあります。今年の夏は暑く、中学校でも35度以上になれば部活動禁止という措置で対応していたと思いますが、地区の体育館にしても中学校の体育館にしても冷房設備がなく、教室にもまだついていない状況で来年度以降に市の方で対応されるということをお聞きしておりますけれども、やはりスポーツをする環境は非常に重要だと思いますので、施設設備の環境整備が重要ではないかと思います。

部会長

なるほど。人生100時代ですからね。高齢者の方々に元気にスポーツをして頂く施策プラス中学生を含めた子どもたちの課外でのスポーツ振興と2つが出ていたと思います。それらのことを一緒に考えると、29番にもトライアスロンが出ていて体育のことと関係があると思います。まちづくりのどこをターゲットにして行っていくかということで、今おっしゃって頂いた中には2つの内容が含まれていると思います。関西福祉大学でも保健体育学科ができましたので、そちらの方の連携はどんどん進めさせて頂きたいと思

います。そこの受け皿となるシステムや組織を作っていくことも必要ですよ
ね。まち全体でスポーツ振興であるとか、健康づくりであるとか、このよう
なことが提言していけるかなと思います。関西福祉大学の方からも意見を伺
いたいと思うのですが、先生いかがですか。

委員 赤穂に来まして、まだ間近ですが、全体的に何か市を盛り上げるものがあ
れば良いかなと思って私の方からトライアスロンなんかどうだろうと提案
させて頂きました。オリンピックも近いですし、いろいろな形で市民の方が
参加できるかなと。私は大阪出身で、「大阪メチャハッピー祭り」というのが
あるのですが、最初の立ち上げのときに警察からダメだと言われたり、まち
を盛り上げるためにいろいろな方々の協力を得て子どもから年齢の高い人
まで気持ちよく踊ろうということで、大阪城ホールをお借りになったという
経緯からずっと関わって参りました。何かまちを元気にするようなものがあ
って、立場が違って参加できる、医療の方もそうですし、スポーツもそうで
すし、子どもも大人も応援者としても参加できますし、もちろん走るという
こともできますし、違う立場で一つのことで盛り上がっていくというような
こともどうかと思ひまして提案させて頂きました。もちろん関西福祉大学
にも保健学科が出来上がりましたので、参加できる多くの学生が市を盛りあ
げることもできますし、ボランティアとしても参加できるかなと思って提案
させて頂きました。

部会長 そうですね。ボランティアだけでなく、教育と市のスポーツ振興や健康増
進に関わる双方の仕組みが上手くいくと良いというご提案を頂きましたと
思います。文化の方はいかがですか。赤穂浪士のことと塩のまちをもっとア
ピールしてはどうかというご提案を頂きました。

委員 もう一つは27番と28番の山鹿素行の話ですが、歴史文化を継承し活用
するところがあるのですが、その最初に赤穂城跡を中心とした文化財
の整理をすとあります。赤穂城の中に山鹿素行の銅像がありますが、昔は
もっと綺麗でしたが整備の関係で今の場所に移りました。いろいろな説はあ
りますが、赤穂事件という忠臣蔵の話も、元々は山鹿素行の教えを浅野さん
含め47名が一生懸命聞いたとなっています。これがなければ赤穂は全国的
にも有名ではないと思いますが、今もお城も無いですし何も無いと思ひま
すが、赤穂事件があって「赤穂」と350年くらい言われています。ですので、
山鹿素行を粗末にできないという気持ちがあります。10年前は、いろい
ろなことがありまして、研究しようという話になっていたそうですが、全然発
展していないので忘れ去られるようなものを今、一生懸命掘り起こす活動
をしています。もう一度具体的に取り上げて頂きたく提案させて頂きました。

部会長 ありがとうございます。10年前から活動をされているのですか。

委員 はい。

部会長 10年前からずっと続いていて、もっと続けたらどうかというご提案でよろしいでしょうか。

委員 はい。

部会長 ありがとうございます。これも先ほど申し上げました教育のまち赤穂というような「教育」と謳った場合の教育内容の一環としてということでしょうか。

委員 入れて頂ければ良いです。

部会長 ほかに文化・スポーツ対策の方でご意見ございませんか。

委員 赤穂市はスポーツ都市宣言をし、そしてスポーツ推進計画に従ってかなり充実したスポーツの取組みをされています。スポーツと文化は社会の両輪だと思いますので、文化芸術振興というところにもっと力を入れてはどうかと思います。最初に頂いた予算特集号で5本の柱の中の第4の柱、生涯にわたり夢を育むまちづくりの中に個性ある地域文化の創造というところがあり、赤穂義士関係あるいは赤穂城関係を充実させていくということ、伝統文化が中心적입니다。後半で文化について、「文化会館については、市民の皆さまの多様なニーズに応え、芸術文化活動の拠点施設として多くの方々に利用される交流の場となるように運営に努めます」と記載があり、文化会館ハーモニーホールが中心的な文化の拠点ですよとありますが、私たちは所謂、市民文化芸術の振興がもっと必要ではないかと思います。文化会館で、さまざまなコンサートをしてしますが、そこへ興味関心のある方が行くという部分のことです。一番言いたいことは、文化団体と連携しながらというようにわずか5、6行で述べられていますが、赤穂市の文化芸術活動と言えば、詩吟あり、絵画あり、コーラスあり、将棋等も含めますし、多くのサークルがあります。そこへ高齢者の方も寄ってコミュニケーションを深めながらしています。もちろん地域の公民館を拠点にして、そのような文化芸術活動も行われています。少子高齢化の中で高齢者の方がコミュニケーションを取りながら、心が豊かになるような活動をしていくべきではないかと思います。これからは少子高齢化なので人口が増えるということはないと思います。赤穂市は人口は少ないけれども、このような活動を通してお互いに満足しながら充実した生活を送ることができていますよというところにシフトを移していくことが必要ではないかと思います。その辺も含めながら総合的に市民文化芸術をもっと振興することに取り組んで頂きたいという観点で、市民文化芸術振興計画というものを作って頂けないかと。スポーツ推進計画と市民文化芸術振興計画と両輪で進めて頂けないかと思います。文化会館にいますと、高齢者が多く子どもの数が少ないことは理解していますが、増やすことは課題ですが

青少年の文化活動の支援をするような文化先進都市赤穂というところを見出すことができれば心が充実した生活を送ることができる社会ができるのではないかと思います。

部会長
委員

ありがとうございます。

先ほどおっしゃったように、青少年の文化活動が停滞しています。赤穂市は合唱のまちとして実績もありますが、小学校中学校のコーラス部や音楽部の生徒が集まらない状況です、やはり指導者の問題もあり、非常に熱心な指導をされる先生がいらっしゃった学校は近畿大会や全国大会へ出場していますが、その先生が転勤すると活動が停滞してしまう悪循環があったと思います。やはり基盤になるのは小学校だと思いますので、小学校に指導できる音楽専任の先生を確実に雇用して頂きたいと思います。それが地域での文化活動のベースにもなると思います。文科省の基準もあるので、なかなか難しいとは思いますが。児童合唱団がありますが、今は10数名しか生徒がいません。ロックンロールまで行ったりしていますが生徒が集まりません。小学校のコーラスと児童合唱団の両方ができるように、指導に関わる先生にどちらにも関わって頂く等して盛り上げて頂ければと思います。赤穂高校のコーラス部はかつて素晴らしい結果を残していました。今は少し停滞していますが、非常に熱心に指導して頂いているので徐々に復活しつつあります。その辺を支援して頂けるような文化施策、推進計画のようなものがあれば良いのではないかと思います。

部会長
委員

ありがとうございます。やはり、これは教育行政ということに大きく関わります。指導者は先生である必要がありますか。

先生である必要はないと思います。

部会長

ということは、ノウハウやスキルの持った方を講師として呼ぶことも考えられるということですか。

委員

はい。学校の中で指導するのは先生がということではありますが、一般にコーラス部などは必ずしも教師でなくても良いと思います。そのような方もたくさんいらっしゃいます。

部会長

そう思います。いろいろな条件整備が必要になってくると思いますが、ご意見ありがとうございました。それでは、文化・スポーツ対策の項目についてはよろしいでしょうか。

委員

スポーツも文化も、先ほどのご発言のように市民が当事者としてレベルアップしていく、充実していくということも必要だと思いますが、もう一つ、未来創造という観点で考えると、市内外からの注目度をいかに高めていくかということも不可欠な要素だと思います。私も仕事の関係で三宮に27年勤務していました。東京や福岡の辺りも転勤で行きましたが、この分科会に臨

むにあたって総合計画書を拝読させて頂きましたが、だいたい網羅しています。下手に私が知ったかぶりをして恥をかくのもどうかと思ったので、今回はあえて提案書を提出しませんでした。実にさまざまな形で赤穂の特色や、他の自治体で注目されているようなことも取り入れていて全体的に網羅しているので、あまり口をはさむ余地は無いのかなと思います。一つ言えることは、市内外からの注目を高めていくということを考えると、たとえば文化芸術にしてもいろいろとされていますが、たとえば西脇に八千代町というところがあり、広島に尾道というところがあります。この二つの自治体が行っている美術展は、かなりインセンティブを使っています。例えば、申し込むだけで5千円もらえる等とインセンティブを行っていて、私が神戸にいるときも神戸から八千代町や尾道に出品している方も多くいらっしゃいました。それは一つの例えですが、目立つような方法で行い、十分それに応募してきたら経済副次的なことがついてくると思います。

部会長
委員

インセンティブを出してですか。

インセンティブを出して注目度を高めると赤穂に足を運ぶので、私は副次的効果はあると思います。もう少しこのようなことも思いきって考えることも必要だと思います。トライアスロンのご発言がありましたが、赤穂の地形を利用した新しい観点という意味で非常に良いことだと思います。問題は、部会長の話にもありましたが、いろいろなインフラを充実しなければ、なかなか言うは易しになってしまいますが、その辺りは行政でも努力をお願いできればと思います。

部会長

ありがとうございます。確かに私たちは未来創造のアイデアを出す役割を担っていますので、これまでの良いものを活かしつつも新しい視点で、できれば注目度の高いものを出すことができればと思います。これまでしてきたことを続ける方法とまた新しいものを取り入れていくという方法もあります。その両方を勘案しながら先に進めさせて頂きたいと思うのですが。

産業対策の30番から32番についてはいかがでしょうか。30番は、ものづくり生産技術向上企業（第四次産業革命対応）の育成。31番は、優れた労働の担い手づくり。32番の若者が集うまち（仕事の魅力発信、企業支援）。これらは働き方や職場というようなことでしょうか。この辺についてご意見を頂けないでしょうか。

委員

32番の農業、漁業、建築関係等の若い世代の働き手が少なくなってきた業種について仕事の魅力を発信していくについてです。私も土建と設備を営んでいるのですが、若い世代の働き手がだいぶ少ないです。私は39歳ですが、どちらかというと39歳は若い方です。教育対策の21番でトライやるウィークについて記載があります。若い世代を入れようと考えてハロー

ワークに募集をかけるのですが、見た目がきれいな仕事ではないので、なかなか来てくれません。上郡高校の二年生に、トライやるウィークのようなことをして募集をすると2名来て頂きました。その2名が高校を卒業してすぐに来てくれました。一度仕事を体験して頂くと地域密着のできるのです、そのようなところに関心を持って就職してくれたことは嬉しいです。トライやるウィークは赤穂中学校がしているのですか。

委員 全中学校の二年生です。

委員 建築関係の会社が一社だけあったような気がします。もう少し地域密着型のところが入ってくれたら農業、漁業、建築関係にも若い子が入ってくるのではないかと思いました。どんどん中小企業の人たちがトライやるウィークをどんどん募集するのも良いかなと思いました。

部会長 外部からも来て頂けるかも知れませんよね。先ほどの優れた労働の担い手というところからも、例えば赤穂で行っているさまざまな産業の伝統工芸とまでも言いませんがそのようなものへの参加や、学生だけではなく若い人、職場として興味がある、おもしろそうだということの地域おこしみたいなのは注目度を集めるというところでは良いのかも知れません。

委員 トライやるの生徒を引き受けますと言えば、おそらく学校で募集すると思います。

委員 最初よく分からなかったのですが、知らない企業も多いと思います。どんどん周知して頂けたら、私たちは来てくださいと言うことができると思います。

委員 例えばトライアスロン。全国レベルで特色のあるもので赤穂をPRすれば良いと思います。トライアスロンは若者が参加しやすいと思います。今の時代なので、そのようなコミュニティの中でできるようなところも工夫してお金を掛けないでできれば良いなと思います。

部会長 産業も文化も仕事も一緒になるようなトライアスロンは必ずしもスポーツウェアを着る必要はないので、職業の方々が集まってチームを組むのも良いと思います。

委員 トライやるウィークの件は、会議があるので先生方にもっと広くPRするように伝えておきます。学校関係者は企業を探すのに困っているのです。

部会長 そうなるとオファーが多くなると思います。

委員 人数は学校で調整します。私は三人子どもがいますが、市外に出ています。やはり勤め先の問題です。建設に興味があったのですが、有名な会社の名前は見えますが、赤穂でもこのようなことをしているということが分かればもっと若い人にもチャンスがあると思います。

部会長 リカレント教育の一環でもあるわけで、何が一番外に売れるポイントかという、大学を有する市というところもあります。それで私もここに座らせ

て頂いているのではないかと思います。大学とのコラボで、例えば文化の中身、産業の中身、スポーツの中身、そして企画や運営、そこに20代が多くいるわけです。福祉学部もあれば看護学部、教育学部もあり幼稚園から高等学校を担う学生が募っています。できれば赤穂に住んで受験して頂きたいと思っていますが、そのようなところに活路が見いだせれば良いなと思います。

観光振興対策に移らせて頂いてよろしいでしょうか。33番から36番まで、33番が有年チャリで行く有年遺跡めぐり、34番が赤穂市および周辺における景観の魅力発見と創出、35番が観光ワンストップサービス、36番がNHK「ブラタモリ」の誘致です。何かご意見頂けますでしょうか。

委員

ご提案については、どれも赤穂の魅力の観光資源の活用ということで、しているものもあれば、していないものもありますので市の観光係と連携して進めていきたいと思っています。今回、未来創造委員ということで参加させて頂いているところですが、この委員会の役割というものが最初の会議で配られました。目指すべき方向性や新たな総合計画の策定に留意してということで市長に提言を行うところなので、資料を見る限り事業レベル的なことで、目指すべき方向性の部分の話し合いをするには細部にいき過ぎているかなと思います。委員がおっしゃったように計画を見直すとはほぼほぼ網羅しています。どこの計画に持って行っても使えるくらいに網羅されている。実際見た中で記載されていることができているれば、例えばもっと観光客が来ているだろうし、福祉の充実もしているので、できていない部分があると思います。そういったところが何なのか、と検証すべき必要があるのではないかと思います。赤穂市として、ここの部分はできているが、まだまだここの部分が不足していると。先ほど言われたように、文化芸術振興についても、行っているが、まだ途上にあるという場合にあるならば、総合計画はどうしても総花的、全部を網羅しなければならないですが、その中でこの10年で力を入れるのは、ここにしましょうと、芸術文化振興であったり、子育て関係であったり、人材育成の充実等その辺を大きく提言していく。それに基づいて、委員の提言の中にもありましたが総合戦略というものが、もっとそれに特化したもの、この三本柱に関して総合戦略を本当にこの10年で進めて行きますといったものを提言しなければ結局絵に描いた餅になってしまい10年が過ぎてしまう気がします。私たちの教育・文化・経済部会、両部会共通の部分もあると思いますが、もう少し大きな視点での提言を三本くらいもっていくなどの方が良いのではないかと感じています。

部会長

その通りです。今日は皆さま方から頂きました提案の概要一覧から、そのようなものを探っていきたいと思っています。全部を入れて網羅するという

ことは、仕事としては行政の方にして頂くことが大事だと思いますが、私たちが提言するときには、その中でこの部分を中心的に進めたら良いのではないかと。どの部分を特価していけば良いと思いますか。

委員

例えば、観光の面においてもインバウンドという言葉が使われて、政府がオリンピックに向けて観光客を増やしていく、あるいはそれ以後もということで、日本の人口が減少している中でどうしても観光産業はインバウンドで賄っていかなければならない部分があると思います。そういった中で国際化という言葉がどれだけこの計画の中に含まれているかといいますと、国際理解を深めるというものがありますが、半ページしか国際化に関するものはありません。芸術文化に関しても国際化は大切ですし、スポーツ振興に関しても国際化は大切だと思います。日本も若い人も含めてどんどん海外に行っています。サッカーにおいてもそうです。久保選手という若い人がバルセロナから帰ってきて日本でプレイしています。例えば国際化という部分を、赤穂市でどんどん進めて行く。その中に文化、スポーツ、教育があるという視点が必要なのではないかと思います。個人的には、娘が合唱団に入っていて、私自身も趣味でフルートをしています。ル・ポンというものがありながら、ここで収まってしまっています。以前赤穂市の合唱がとても盛んだったのに落ちてきています。いくつかの小学校で頑張ってはいますが、NHKのコンクールを聴きに行った際に他の学校のレベルの高さに愕然としました。それだけ教育や文化に力を入れているのだと分かるほど学校間、地域間に差がありました。そのような意味でも、文化芸術振興をして頂きたいなと思います。赤穂はもっともっとできるのではないかと思います。

部会長

ありがとうございます。10年前には、それほど着目されなかったかも知れませんが、最近では国際化を抜きにしてはすべてのことは語れないだろうというくらいまで注目を集めています。しかし、一つのことだけではなく、教育・文化・経済すべての、先ほどおっしゃったようにスポーツの国際化もあれば文化の国際化もあります。もちろん教育にも国際化の波は来ています。何をキーワードとして提言をまとめるかというところも、なかなかおもしろいなと思いました。教育対策、文化・スポーツ対策、産業対策、観光振興対策のそれぞれの柱の中に横串を渡すというような考えを入れてそれぞれの方向性を出していければと思います。国際化というからには、赤穂の中で完結するのではなく、外に向けて、または赤穂の人が外を見るという両方が涵養されるような提言になれば良いと思います。皆さまにそれぞれの提案内容を読んで頂いてご意見を頂いたところですが、両部会共通のところは福祉の部会でも勘案されると思われます。

コミュニティ推進対策、交流基盤対策、移住・定住対策、情報共有化対策、

その他についてご意見ありませんか。先ほどいただいたお話の中にいくつかこれにコミットするものもありますよね。

委員 コミュニティ推進対策の中で、40番の地区公民館を地域の拠点づくりの場へについてです。それぞれの地域の人数が少なくなり、孤立してしまうような中で、地区公民館へ行けばお年寄り同士が話をできる、地域住民と話ができる、趣味ができることは非常に大切だと思います。この総合計画はさらに10数年先なので、その頃になればバスも無人で自動運転になると思います。そのようなところにお住まいの方がコミュニケーションをとって何か自分の生きがいを見つけることが大切だと思います。地区公民館を中心として活動ができるように、さらに活性化させていくことが必要ではないかと思います。

部会長 地域の拠点という意味でということですか。

委員 はい。

部会長 ありがとうございます。活動拠点という考え方と、スポーツや文化の拠点や誘致するときの場所等、学校とあると思います。

他にご意見ありませんか。

委員 43番の情報共有化対策についてです。印刷物の見直しは、重要だと思います。それに加えて広報活動の内容の拡充を図っていく視点が必要だと思います。

部会長 どの辺りまでお考えでしょうか。市民ですか。

委員 市民も赤穂市内外もです。情報を発信していく機能です。行政側でも努力はして頂いていますが、今どきのことですので、もっとインターネットを活用する方法が必要だと思います。

部会長 学校でもプログラミングもしています。私は、大人だけでなく子どももできると考えています。何か違う視点でするならば、今の広報活動のようなことも大人と子どもと一緒にするなど、大学がある市だからこそできる、子どもも大学、大人大学を提案させて頂いていますが、その大学で学ぶことは学校教育の延長上で学ぶものではなく、例えば起業していく子どもたちに必要なインフラをどうするか、収支計算をどうするか、外へ向かって発信していくには自分たちなら何をするかなど新しい視点で若いとか子どもの瑞々しい感性を活かすことができるような場所があり、そこでできたものを外へしっかり発信していくことも良いと思います。これは子どもだけでなく、大人にも言えることで、定期的に経験を積んだ人たちがそのようなものを作り上げる。ここで話しているような発展的な内容が、大学リカレント教育の中で大人大学という卒業した方に学んで頂くというようなことが入っていくのではないかなと思います。その一環で、そこで運営する人ができたらトライ

アスロンもそこで企画運営していく等、すべてのことがバラバラにあるのではなく、いろいろなものが連携、共同して動いていく。赤穂くらいの規模なら東京や大阪のような大都市でするのではないスマートシティを実現できるのではないか。網羅的にするものに階層をつけて、最初にするもの、次にするもの、10年後にするもの、さらにその後子どもたちが考えていくものというような立体的な絵を描けることができたらと思うのですが、皆さま方のお話を伺いながら思いつきました。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。交流基盤やオープンシティというものもあります。今ある行事の見直しも違う目で見るとインバウンドの方にどう見えているのか、外に発信していくものはないのかという点でもう少し自由にトークしていただけたらと思います。

委員

個人的に申し上げると、推進の方法が非常に難しいのでどうしても筆が進みませんでした。私は50年ぶりに赤穂に帰ってきました。今の赤穂にとって一番抜けているのは、部会長がおっしゃったようにいろいろな基盤があり、その土台にいかに乗せるかを考えると企業誘致が非常に重要だと思います。既存の地場企業の拡充もありましたが、それと同じ、あるいはそれ以上のエネルギーで企業誘致を図らなければ人口もどんどん少なくなり事業所もどんどん少なくなってきました。ジャンルはありますが、企業誘致はかなり重要な位置づけになるのではないかと思います。仕事柄そのようなことを推進したことがあります、なかなか難しいです。赤穂という土地柄、交通の便が悪いので交通関係のインフラをどのように整備していくのが難しいです。また、企業誘致ということで新しい企業のことばかりでは既存の地場企業とのバランスの問題もあります。手がつけにくい分野だと思いますが、しなければジリ貧傾向にあるのではないかと思います。

部会長

皆さま方のそれぞれの立場から、自分の企業や仕事からは、内側のものは見えますが、外側には何が見えますか。外には何があって、何とリンクできるのかについてはインバウンドの話が出ましたが、どの辺とリンクすると考えられますか。

委員

観光のインバウンドを考えると、姫路までは来ていますが赤穂にはほとんど来ていません。国際化の関係で観光客を誘致していく施策も必要ですが、国内の観光客が減少している面もあります。シティマラソンを実施していて北海道から鹿児島まで全国から参加して頂いています。その場合、観光協会や旅館組合とタイアップしたスポーツツーリズムの考え方を取り入れた大会にできたらと個人的には思います。地元企業からは協賛を頂いて大変お世話になっていて、かんぼ生命も協賛しましょうかと言って頂いてだんだん広がっています。できるだけ多くのランナーを誘致するために各地に出かけま

す。たとえば大阪城のナイトランはスポニチが主催していて、そこにスポーツ推進課の職員が行ってビラ配りをしてシティマラソンの宣伝をしています。各地のマラソン大会に行っても赤穂を宣伝しています。その結果、今年は3,000人を超え目標の人数より200人ほどオーバーし参加者が増えてきています。積極的に出かけて宣伝しなければ赤穂市は認識されないと思います。視察に行ったりしてノウハウを得ることも大事ですし、積極的に宣伝することは企業誘致にしても赤穂の良さを外に向かって発信するにしても情報は非常に重要だと思います。

部会長 同じ目標の人たちは、そこに目が向いていますので、そこをターゲットとして広報活動をするのは一つの方法だと思います。赤穂の義士はハリウッド映画にもなりましたよね。ハリウッド映画になるような題材なのかと若者もびっくりしたのではないかと思います。関西福祉大学の一年生にこの映画を知っているか聞くと半分くらいは知りません。そこで教えていくわけですが、最近は時代劇が少ないのも理由もあるのかも知れません。皆さま方からご意見を出して頂きました。今日のところは、ご意見を頂いたところまでで次回に向けて大きな提言をしていきたいと思っています。一つ一つのことは今日伺ったということですのでよろしいでしょうか。他に言い残したことがある方はお願いします。

委員 郷土学というものが関西福祉大学の講義にあります。

部会長 赤穂学ですか。

委員 はい。二年前くらいに中央義士会の会長が来て公演しましたが、半分くらい寝ていました。赤穂へ来たからには少くお話しして頂くようお願いしたいです。

部会長 面白くして頂きたい。大学の学生も寝たりします。申し訳ございません。

委員 難しい説明だったからだと思うので、もっと面白くした方が良いと思います。

今まで忠臣蔵の映画は江戸ばかりのシーンでした。赤穂がたくさんでる映画を考えています。いろいろな赤穂のシーンが入る映画を作っていますので、できたら学生たちに出て頂きたいと思いますが、よろしくをお願いします。

部会長 もちろんです。期待しています。

委員 直に赤穂義士とはこのようなものだ、忠臣蔵とはこのようなものだ、と若い人は受け入れない傾向にあります。そして赤穂ブランドがある。例えばスポーツやミュージカルというような中で赤穂義士を伝えていく。そこから先は興味がある人は勉強する。赤穂義士は素晴らしいですよ、忠臣蔵は素晴らしいですよ、と言ってもなかなか通じないです。

部会長 しかし、赤穂の義士の衣装はインパクトがあります。そのようなところを切り口にしながら、先ほど申し上げたような、どの辺のところをどのように散りばめて、平面ではなく10年間の提言になるので立体的に構図を作っていけたらと思います。

委員 10年の中にはオリンピックも入っています。

部会長 そうですよね。

委員 インバウンドと言えばオリンピックが対岸の火事であってはいけないと思います。

委員 オリンピックでは、事前に選手が来ますよね。各地で合宿をします。赤穂でもできないのかと思います。

部会長 赤穂で合宿をするのですか。

委員 今のところないです。

部会長 お金も掛かりますよね。

委員 お金が掛かります。国際レベルや全国レベルのものを一つ、赤穂はこんなものが全国に誇ることができるというものがあれば良いと思います。

部会長 ワールドカップのときに中津江村がニュースになって、中津江村に観光客が行き、話題になりました。

委員 淡路島もありました。

部会長 活性化しますよね。そのようなことも考えながら、しかしそれが終わってしまったら錆びれるのであれば同じことなので、続いていくシステムも必要だと思います。なかなかおもしろいと思いました。

委員 良いサッカー場がありますので誘致したら良いと思います。

部会長 赤穂の駅前のホテルに泊まると、外国の方がたくさんいらっしゃいますが、どこに行かれるのでしょうか。

委員 全員が観光で来られている訳ではなく、仕事で来られている方が結構いらっしゃいます。

部会長 ビジネスの方なのですか。

委員 はい。三菱さんは海外の方が研修に来られて東横インに泊まる方がいらっしゃいます。

部会長 お子さん連れの方は。

委員 そのような方もいらっしゃいますが、まだまだです。赤穂の認知度を上げていかなければならないので、その取組みとしてはホームページや台湾に行ってPRをしています。台湾の観光事業者さんを連れてきたりして、地道な取組みをしていかない限りはダメだと思います。しかし、その受け入れ態勢として赤穂市内の美術館や博物館に外国の表記があるかと言えば何もありません。たとえば忠臣蔵を知るために来ても、歴史博物館に来ても何も表記

が無ければ何も伝えることはできません。このような今できていないことは、すでにここに記載されています。できていないということは、地道につめて潰していかなければ難しいかなと思います。これがいかに推進されるのかが大事なところだと思います。観光においては、今まで姫路城や大阪城でした。台湾のお客さんはリピーターが多いので、私が知らないような岡山のカフェに行って写真を見せられることがあります。地方の何でもない埋もれている魅力のところに外国人がこれから入っていくような世の中になっていくと思うので、そういった意味でも内側の国際化であったり、外側の国際化であったりが必要になっていくと思います。

話がずれますが、小学校の統廃合とありました。地域を見捨てていくようなことをすると後で後悔することになります。大切な文化がそこにあるので、例えば古池という昔の塩田のところは昔の形がまだ残っているところがあり、そのようなところをいかに行政として、公共サービスの提供という意味ではお金が掛かる部分はあるかも知れませんが、そこを守り続けていかなければ日本国土はどんどんつまらないものになってしまうのではないかと思います。ここに来るまでは人口3,000人未満の小さな島に住んでいました。その島の魅力を日本人や海外の方に伝えていく事を仕事にしていました。このことは日本のためにも大事なことだと思います。

部会長

今おっしゃったことは、地域の歴史文化、地形、醸し出す自然のようなものと、外国の方はどんなに小さなところにも行って魅力を発見するので人とのつながりだと思います。日本のおもてなしの心が、その人たちを繋いでいくのではないかということになれば全部に関わってきます。まちの人たちがどれだけ自分事として考えていくか、考えてもらうためのプランということをしっかり練って頂いて、できていることとできていないこと、まだこれからしようとしていることなどの洗い出しも必要なかなと思います。その中で重点的に、このことについてもっとしたらどうですかという提言にだんだんと傾いていくのかなと思います。ありがとうございました。

今日のところはここまでで終わらせて頂き、事務局にお返しさせていただきます。

(3) その他

事務局

次回の部会の開催にあたりましては、11月中旬を予定しております。それにつきましては、部会長の日程に合わせて調整し、後日ご連絡させていただきたいと思います。

それから、次回は部会としての意見集約に入ります。先ほど委員さんの発言にありましたように、いただいたご意見は個別的なものが多ございました

ので、その中から、大きな括りといえますか、キーワードとなるようなものを、縦軸なり横軸なりを通していきながら、まとめていくというかたちにさせていただきたいと思います。

それから、委員の皆さんで、この場で言い足りなかった点や補足事項、その他ご意見がございましたら、事務局へご連絡ください。もしくは、次回の会議の場で言っていただけたらと思います。

よろしくお願いいたします。

事務局からは、以上です。

部会長 ただいまの事務局の説明について、何かご質問等ございませんか。

委員 (質問等なし)

部会長 ないようでしたら、本日の会議はこれで終了いたします。

お疲れ様でした。

(4) 閉会